



地域の子育て支援活動のポイント

みんなで支え・みんなで育て・みんなが育つ

少子高齢化は四国が抱える深刻な社会問題の1つですが、併せて、核家族化、地域社会の希薄化など様々な問題が増加しています。子育てにおいては、育児不安や孤立化などの増加がみられ、母親の抑うつや児童虐待などとの関連も報告されています。

一方で、子育て世代は、親族以外の高齢者世代の住民から日常的にはほとんど支援を受けていない現状や育児に関する不安が高い母親ほど社会的な支援を受けていないことも報告されています。

このような状況の中、母親が一人で子育てを担うのではなく、家族、地域、社会で地域の子どもの育ちを支える存在として期待されているのがシニア世代の有する「祖父母力」だといわれています。「人を幸せにすることで、自分が幸せになれる」「関係するみんなにメリットがある」このような関係のことを「Win-Win (ウィン-ウィン)」の関係といいます。では、子育て世代にとってシニア世代の支援を受けることはどのようなメリットがあるのでしょうか。

初めて子育てを経験する若いお母さん方は、言いようのない不安や自分一人が社会から取り残されてしまったような孤独感に押しつぶされそうになることがしばしばあるといわれます。このような気持ちを抱いているお母さん方に、子育て経験者であるシニアの方々から「大丈夫だよ」「子どもってそんなもんだよ」「ほんとに可愛いね」と声をかけられたらどれだけ救われることでしょう。少しの手助けや声かけをしてもらえる人が身近にいることで、お母さん方はどれだけ孤立感を和らげ、わが子を慈しむ気持ちをもつことができるでしょう。

そして、そのような環境の中で育った子どもには、高齢者への理解が進み、互いを思いやる温かい心を育むことや社会性が培われることにもつながると思われます。

つまり、家族が小さくなり、家族の中に、或いは近くにおじいちゃん、おばあちゃんがない子どもが増えている現代において、シニアの方々がこれまでのさまざまな経験の中から培ってこられた子育ての知恵を若い世代に伝えることが、子育て世帯にとって大きな支援となるものと考えられます。これがシニアの方々が地域の子育て支援に関わることの第一義的な意義であると思います。

一方、支援の提供者側であるシニアの方々にとっても、子育て支援などの地域における社会活動に参加することで、自分自身の生きがいづくりや介護予防に寄与するというメリットがあると考えられています。

最近のシニアの方々の中には、「自分もまだまだ輝きたい」、「充実した生活を送りたい」と思っている人が多いようで、内閣府の「社会意識に関する世論調査」(2015年)※1によると、これまで

に蓄積してきた知識や経験をボランティア活動や地域活動といった社会貢献活動に活かしたいという意識はここ20年で大きく高まっています。そして、活動に参加した方からは、「自分の役割がある」、「子どもからエネルギーをもらえる」、「自分の子育て期の経験や反省を活かしつつ、子育てに参加できる」といった声が寄せられており、大きなやりがいを見出している様子がかげえまます。このことは、社会的サポート、社会的ネットワークはシニアの心身の健康を高めるというこれまでの数々の研究で明らかにされていることにも通じていると思われます。

そして、高齢化の進展が急激に進む四国ですが、そのことをマイナスイメージだけで捉えるのではなく、経験豊かで地域で活躍できる元気なシニアが増えていると捉え、シニアの方々が豊富な経験を活かしてより積極的に社会貢献活動に参加するようになれば、子育て支援に留まらず、元気な地域づくりの契機になるのではないかと思います。

なお、四国では、徐々にシニア層による子育て支援活動が始まっており、今回は、4県それぞれの実情や特性を活かした活動を紹介していただきました。4県の活動を通してみえてきた子育て支援を地域に根付かせてゆくための大切なポイントは、①人材育成、②世代間交流、③パートナーシップのようです。

人材育成については、各県とも最初は、徳島県の「シニア子育てプログラム」や「かがわ子育て大学」の開催など、行政が子育て支援に必要な様々な研修会を企画しています。そして、そこで学んだ積極的参加者の活動を通して、活動の輪が地域に広がっています。さらに「学び場人材バンク」を設立し、地域の人的資源情報を蓄積していこうとしている取り組みも素晴らしいと思います。世代間交流については、愛媛県の「三世代交流イベント」の開催、物づくりや伝統料理づくり、身体を使った遊びや農業体験などシニアと子育て世代相互の関係を深められる体験プログラムを多彩に展開されています。また、高知県の「あったかふれあいセンター事業」など、子育て世代とシニア世代が交流できる接点となる居場所づくりの推進も重要と言えます。そして、最後に各県とも行政、教育、NPO、住民などとのパートナーシップを大事にして取り組まれているように思います。なお、パートナーシップとは、「異なる立場の機関や人たちでつくられた組織の活動を通して形成される、信頼し合いそれぞれの力を活かして育ちあう関係性」※2といわれています。

今後、さらにそれぞれの力を信じ、認め、尊重する姿勢を大切にして、地域で子育てをする力、コミュニティの課題を解決する力を強めていって欲しいと思います。

さあ、あなたも自分に合った方法でシニアによる子育て支援の世界に足を踏み入れてみませんか。そして、是非、地域のみんなで子育て世代を支え、みんなで地域子どもたちを育て、みんなが育ち合う地域にして行きましょう。

※1. 内閣府.高齢者の地域社会への参加に関する意識調査.2015. <http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h25/sougou/gaiyo/index.html>

※2. CBPR研究会. 地域保健に活かすCBPR—コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ. 2-4, 医歯薬出版, 2010.